

「聞く力」「イメージする力」「読む力」

日本子どもの本研究会理事
三芳町立中央図書館司書
代田 知子

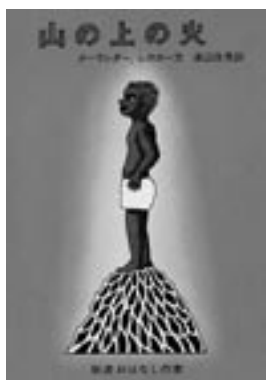
ブックトーク授業に、私は必ず素話（話を覚え本を見ずに語ること）をひとつ入れます。読み聞かせと違い、ずっと子どもの顔を見て語れるので、彼らの目の輝きや話に入り込んでいく様子が実によくわかり楽しくてたまらないからです。

今年は六年生九クラスに、エチオピアの昔話集『山の上の火』（ハロルド・クーランダー、ウルフ・レスロー文、渡辺茂男訳、岩波書店、一九六三年）の中から、「グラの木こり」という話を語りました。グラの村の木こりが、たきぎを切るためにでっかい枯れたオリーブの木に登り、あろうことか自分がまたがっている枝の付け根を斧で切り始める。途中で坊さんが「落ちて死ぬぞ」と忠告しても耳を貸さず、ついに枝が折れて木こりは墜落。ところが、地べたに倒れた木こりは「おらは死んじまった」と思い込み……という落語のような笑い話。でも、大真面目にまぬけなグラの人たちを笑ううちに、何故か心がほっこりとしてくる素敵な話です。

これを語ったあるクラスでは、クスクス笑いがだんだん広がり、とうとう先生も身をよじって笑い出し大成功！ところが、その五分後に訪れたクラスではほとんど反応がありません。どうやら木こりが枝を切る冒頭の場面がきちんとイメージできず、話が理解でき

ない子が多かったようです。同じ話を同じ学年にしているのに何故こんなに違うのでしょうか。あとで聞いてみると、最初のクラスは先生がよく絵本や詩を読んでいるクラスで本好きな子が多く、二番目のクラスは本の話題がほとんど無いクラスだということ。こういう例は決して珍しくありません。

本が苦手な子どもたちには、六年生でも中学生でも、まず読み聞かせで物語を楽しませ、耳から聞いてイメージする力をつけてあげることがとても大切です。イメージする力がなければ、読書を愉しむことなどできないのですから……。



しろた ともこ 図書館や学校、保育所などで、子どもたちに読み聞かせや語りやブックトークができる今の仕事が大好きです。

著書…『読み聞かせわくわくハンドブック』（代田知子著 一声社 二〇〇二）

DVD…『絵本・読み聞かせ おうちで実践編 1』
2』（代田知子監修・出演 アスク 二〇〇五）